▼エッセイ

大人だけど、学生生活♪

▶3時限目「豊かな出会い」

私は、現在、文学部教育学科に所属している。学生の多くが教員になるために勉強しているが、私は、何年かの社会人生活から教員には向かないということを十分理解しているので、教職課程とは関係ない科目ばかり学んでいる。

中でも、日本に外国文化が入ってきた背景を学ぶ「比較文化」の授業は、今年一番受けていて楽しい授業だ。私自身、もともと歴史が好きなので、話を聞いていて多くの発見がある。先生も穏やかで、広い教室でマイクを使っても声が通らないくらいボソボソと話すのだが、その話し方に人柄が出ていて、声を聞いているだけで癒される。水曜日にこの授業があり、週の真ん中で多少の疲労を感じるときだが、ちょっとした癒しを求めて授業を受けている。

授業内容は、例えば「1543年にポルトガル人が鹿児島県種子島に漂着し、鉄砲が伝来。この時、鉄砲はどのように伝わったのだろうか」などということを様々な方面から考える。鉄砲が伝来した当時、日本は戦国時代。鉄砲の伝来で、その後の戦の形態が大きく変化していく。ポルトガル人は、言葉がうまく伝えられない異国で、どうやって日本人に鉄砲を伝えたのだろうか。そう考えるといろいろな想像ができる。ポルトガル人は、鉄砲の使い方を実演しただろうし、好奇心旺盛な日本人は、見たこともない鉄砲に対して興味を持ったはずだ。最初は、お互いに警戒心が働いたとしても、少しずつコミュニケーションを続けていくうちにお互いの国民性を理解し、次第に距離を縮めていったのではないだろうか。

当時のことを考えていくと、相手に自分の意思を伝えるコミュニケーションは、本当に大切だと思う。たとえ、言葉が通じない相手でも何かを伝えたい、理解したいという気持ちが、人間関係を築いていく。授業の中で先生は「豊かな出会いをするためには、自分の殻に閉じこもっていてはいけない」と良く言われる。今の私は、職場でも学校の人間関係でも波風を立てないように必死になっている気がする。そうすることが、自分自身を守れて、楽だからだ。しかし、豊かな出会いをするということは、一歩踏み出して自分のことを相手に伝えること。そう考えると、今いる環境に満足して周囲に無関心でいないで、興味関心を持って行動することが大切なのかもしれない。まずは、毎週水曜に私にちょっとした癒しを与えてくれる先生に質問をすることから始めてみようと思う。

「あ、でもすっごい緊張するな、多分(笑)」

文=籐果
とうか●1978年生まれ。現在、派遣で事務の仕事をしながら、夕方から学校に通っている。先日「スポーツの科学」という授業でストレス度チェックをした。意外なことにうまく対処ができているという結果になった。女性のストレス発散方法は「買い物・食べること・おしゃべり」らしい。どれも当たっている。この3つにいつも付き合ってくれる友達に感謝しないといけないな。

▼旅行日記

トラベルライター四方美人が行く!

その五 挑戦!!ホノルルマラソン

9月、10月はどこへも旅行へ行かずおとなしく過ごしました。その間、12月のホノルルマラソンに向け準備。

「ホノルルマラソンに出場するのが夢なんです!」という同僚の言葉が発端で始まった企画なのに、オマケでついて行く私が添乗員さながらのアレンジメント。

といっても、今は「ホノルルマラソンツアー」なるものがあり自分たちに合うものをチョイスすればいいだけ。ですが敏腕添乗員は「一番安いから!」という理由だけで決めてはいけません。ハワイと言ったら、「ビーチ、ショッピング、エステ」の3大イベントははずせません。美容業界にいる者として本場のロミロミは受けねばならないし、円高の今、ショッピングしなくちゃいけません。ビーチでピナコラーダも飲まなくては。

これらのミッションを遂行するためには、ホテルの場所がもっとも重要。アクセスが不便な場所は貴重な時間を無駄にします。ですが、予算という厳しい壁もクリアしなければならず、ホテルの位置をひとつひとつ確認し、かつ部屋の大きさもチェック。そして、旅行申込書に不備がないかを確認(予想通り同僚は書き方を間違ってた)その間に期限が切れるパスポートを新しく作り直し、入金作業。それから、米国行きに必要な渡航認証をネット申請。忘れん坊の同僚のため、資料は私が管理して…なんてやっていたら「マラソンは四方美人さん(私)が一番のエースなんですから!」と、一緒に行く同僚から期待までされていました。

オマケのはずの私がエースとなり(なぜだ)、マラソンなんだか遊びなんだが目的も変わりつつありますが、一生に一度と思われるフルマラソンに向けて頑張りたいと思います。

写真は3年前のハワイで食べた有名なパンケーキ。

文=四方美人
しほうびじん●趣味は旅行。国内外問わずどこでもOK。夢は四国お遍路とビジネスクラスで世界一周。20代はハードな日程も気合と体力でカバーしていたが、30代に入り心と体が思うようについていかず「余裕のある旅、大人な旅」にシフト中。仕事は美容業界で広報を担当。地元群馬に綺麗と健康をお届けします。

COLUMN CAFE コラムカフェ

Column.8

「B級の美学」

「B級」はレッテルなのか、ほめ言葉なのか?

ラーメン、焼そば、焼き鳥、お好み焼きなど、より大衆的でリーズナブル、かつ手軽に食べられるファストフードを総称した「B級グルメ」が人気だ。これも不況の影響だろう。「安いこと」は、一種のステータスになりつつある。ここで重要なのは「安い」のはもちろんだが、「決して質が大きく劣る」訳ではないということだろう。当然のことだが、いくら安くても美味しくなければ誰も食べない。

映画にも昔から「B級」が存在する。こちらは、「一流ではない」という揶揄を込めたものと、「低予算で作られたコストパフォーマンスの良い佳作」という、どちらかといえば賞賛の意味合いを含んだものとがあるらしい。確かに、莫大な予算を使い、有名俳優を起用した大作でもくだらない映画は多々ある。そのくせ、微々たる予算と無名俳優で制作された映画が、口コミで広がりヒットすることもある。どちらが真の意味で「A級」なのかの判断は、観る側に委ねられる。

例えば、服飾業界でうなぎ登りに業績を伸ばす「ユニクロ」はB級か?アルマーニやシャネルを愛用しているセレブにとっては、「B級」かも知れない。だが、我々一般ピープルにとっては、安く、それなりに品質の良い商品を提供してくれる「ユニクロ」は、「愛すべきB級」ということになる。

「価値観が多様化している」と言われる現代社会だが、「良いモノは選ばれる」という原則は変わらないはずだ。「B級」が世の中のニーズに合致するならば、人々はそれを選ぶだろう。「B級」は自信を持って胸を張るべきだ。

「俺たちはB級だ。何か文句があるのか?」と。

文=赤彗堂鹿男
せきすいどうしかお●1979年生まれのゴールデンエイジデザイナー。フットボールをこよなく愛するサッカー馬鹿。好きなクラブは鹿島アントラーズとリバプール。いつか欧州へサッカー観戦に行きたいが、飛行機に乗りたくないので、イギリスと日本が陸路でつながる日を心待ちにしている。

当方の売り物は、

❶各種デザイン・制作
※チラシ・リーフレット・パンフレット・ホームページ印刷だってやっちゃいます。

❷各種文章作成・編集
※社内文書、プレゼン資料、印刷物、ホームページ原稿手紙、恋文、挨拶文、キャッチコピー、商品ネームetc

❸各種アイデア・企画
※各種おもしろいこと、考えなければならないことどうしたものか困っていること

❹その他、各種何か
※自分では気づいていませんが、他にも何かできるかも知れません。

以上です。

デザイン&文章作成&いろいろ
ゼロトップ デザイン ワークス
〒373-0013
群馬県太田市市場町457-3
TEL.050-7525-6023
e-mail:nao@zero-top.com
web:http://www.zero-top.com